

## 紀伊半島大水害の 五條市大塔町清水地区

# 対策工事完成で式典

平成23(2011)年9月の紀伊半島大水害を受けて大規模な深層崩壊が起きた五條市大塔町清水地区で、再発防止のための国土交通省の対策工事が完成し、16日、現場近くの同町宇井の旧大塔小・大塔中の大塔体育館で、国、県市の関係者ら約50人が出席し完成式典が開かれた。

清水地区では記録的な大雨により、熊野川岸の山腹が幅220㍎、高さ250㍎にわたって崩れた。対岸にあった宇井地区を土砂と濁流が襲い、8人が死亡し、3人が行方不明になった。対策工事は、国土交通省が災害直後から着手し、昨年2月に完了した。のり面を整えて安定化させ、浸食を防ぐための護岸工事も行

った。斜面に鉄筋を打ち込んで安定化させる工程では、ロープに体を預けた作業員が施工する新技術を取り入れて工期の短縮を図った。式典には、三上幸三・国交省砂防部長、東川直正・同近畿地方整備局長、荒井正吾知事、太田好紀・五條市長、田野瀬太道衆院議員、堀井巖参院議員のほか、県議会から地元選出の秋本登

## 関係者約50人が出席

志嗣議員、南部・東部地域振興対策特別委員長の西川均議員、南部振興議員連盟会長の川口正志議員、建設委員長の岩田国夫議員、吉野郡選出の浦西敦史議員が出席した。冒頭、犠牲者を悼んで黙とうを捧げた。次いで、国交省の三上部長、荒井知事、太田五條市長の順にあいさつ。それぞれが、11年前の紀伊半島大水害を振り返りながら、自然災害に強じんな土地づくりの必要性を強調した。来賓のあいさつの後、対策工事の完成記念看板のお披露目もあった。

志嗣議員、南部・東部地域振興対策特別委員長の西川均議員、南部振興議員連盟会長の川口正志議員、建設委員長の岩田国夫議員、吉野郡選出の浦西敦史議員が出席した。冒頭、犠牲者を悼んで黙とうを捧げた。次いで、国交省の三上部長、荒井知事、太田五條市長の順にあいさつ。それぞれが、11年前の紀伊半島大水害を振り返りながら、自然災害に強じんな土地づくりの必要性を強調した。来賓のあいさつの後、対策工事の完成記念看板のお披露目もあった。

資らは高さ600㍎、長さ850㍎、幅460㍎にわたり、1137万8000立方㍎もの深層崩壊が発生した同市大塔町赤谷地区の3号砂防えん堤の復旧工事現場を視察。国交省紀伊山

系砂防事務所の係員から工事の進捗状況や、鹿島建設が開発したプログラミング制御された重機を使用した、自動化施工の技術手法などの説明があり、参加者らは熱心に聞き入っていた。

### 三上幸三・国交省砂防部長の式辞

平成23年9月の台風12号により、紀伊山地では総降雨量が広い範囲で1000㍎を超え、3000㍎力所を超える斜面崩壊が発生。崩壊土砂量は1億立方㍎に及んだ。奈良県、和歌山県では17カ所の河道閉塞が確認され、特に地盤の深いところで土が崩壊する「深層崩壊」現象があり、大きな災害となった。

伊山地砂防事務所を設置。大規模斜面崩壊や河道閉塞の決壊による2次災害を防止するため、特定緊急砂防事業を実施してきた。さらに、同29年4月から紀伊山系砂防事務所を設置。直轄事業として継続した砂防事業を実施してきた。



プログラミング制御された重機を使い施行中の赤谷地区の3号砂防えん堤

## 赤谷地区の復旧工事現場も視察

国では災害直後から緊急調査と工事に着手するとともに、同24年4月からは紀

伊山地砂防事務所を設置。大規模斜面崩壊や河道閉塞の決壊による2次災害を防止するため、特定緊急砂防事業を実施してきた。さらに、同29年4月から紀伊山系砂防事務所を設置。直轄事業として継続した砂防事業を実施してきた。

また、同26年4月には近畿地方整備局に大規模土砂

災害対策技術センターを設置し、砂防事業を通じた技術開発や研究活動を行い、その成果を全国に発信している。

未曾有の大災害から、昨年9月で10年が経過した。奈良県内6カ所に対策工事を実施してきたが、清水地区が最初の完成。この復旧の10年を振り返り、自然への思いと復旧の困難さを痛感した。

近年、気候変動の影響から土砂災害が激甚化、頻発化する傾向があり、自然防災による強じんな国づくりの必要性、重要性を再認識している。今後とも国としてハード、ソフト両面での対策を推進し、防災力の向上を図っていく。



①護岸工事など全てが完了し、きれいに整備された清水地区の現場②完成記念看板をお披露目する関係者



赤谷地区の現場を視察する右手前から川口県議、堀井参院議員、太田五條市長、一人置いて荒井知事



鹿島建設が開発した自動化技術について、画面を見ながら熱心に聞き入る視察参加者